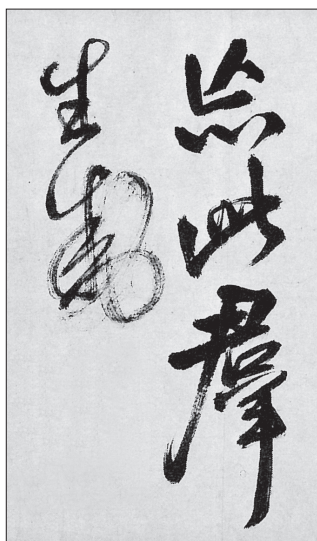


高橋香樹会長担当 半紙臨書課題

(7月22日締切) 出品料440円

王鐸(行書五律五首卷)

第五回
1、字句「忘此群生動」



『王鐸集』(二玄社)

2、形式「半紙タテ使用。右に「忘此群」と臨書し、左余白に落款「○○臨」と調和を工夫して書き入れる。

3、概観「現在は、このような卷子での作品は、ほとんど見ないが、これらの作は一発で書いたと思われ、それでも尚、このような構成が可能なのかと驚かされる。

この「行書五律五首卷」と「草書七律五首卷」は、同時期に書かれたと言われているが、筆を運んでいく場合、四方八方どちらへも動ける力があって、突きと伸びそのくりかえしによって線ができていく。特に、渴筆のところはかえって美しい。半紙課題の「生動」や図版の「香路」など、かすれ筆をかまわず書きすすんで、筆のさきさきまで力がこもって弱くならない。そうしたところが、この「行書五律五首卷」は随所にあらわれている。私は、今まで創作する時は、字書で王鐸の文字を意識して書くことが多かったが、やはり、王鐸の書をしっかりと学ばなければと、今回、王鐸の書を取り上げてみて、深く感じることができました。

4、各字のポイント

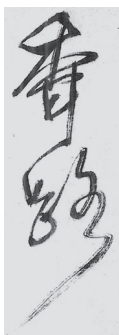
忘 筆線が皆右肩上がり。

此 「忘」以上に右肩上がり。

群 一画目が右肩下がり。他は右肩上がり。

生 横画の方向が異なる。

動 横画は皆右肩上がりだが、「力」の終画は左下に払い、バランスを取る。



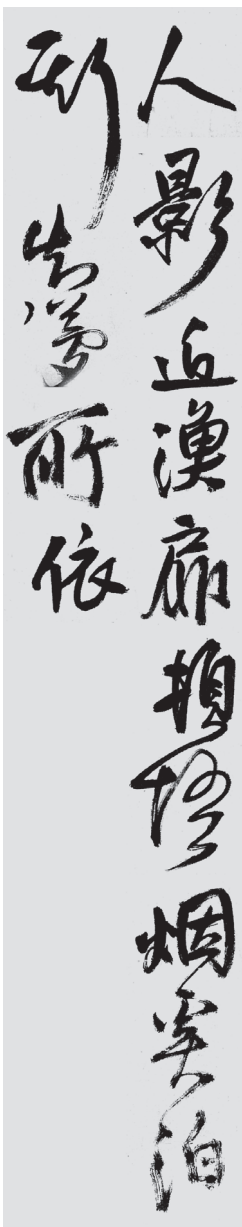
「香路」

一字書課題 (7月22日締切)

- (1)書体自由 (2)半紙タテ
- (3)落款は余白に調和を工夫し書き入れる
- (4)出品料 四四〇円
- (5)バーコード券の余白に「一字書」と記入

別

条幅随意参考



『王鐸集』(二玄社)

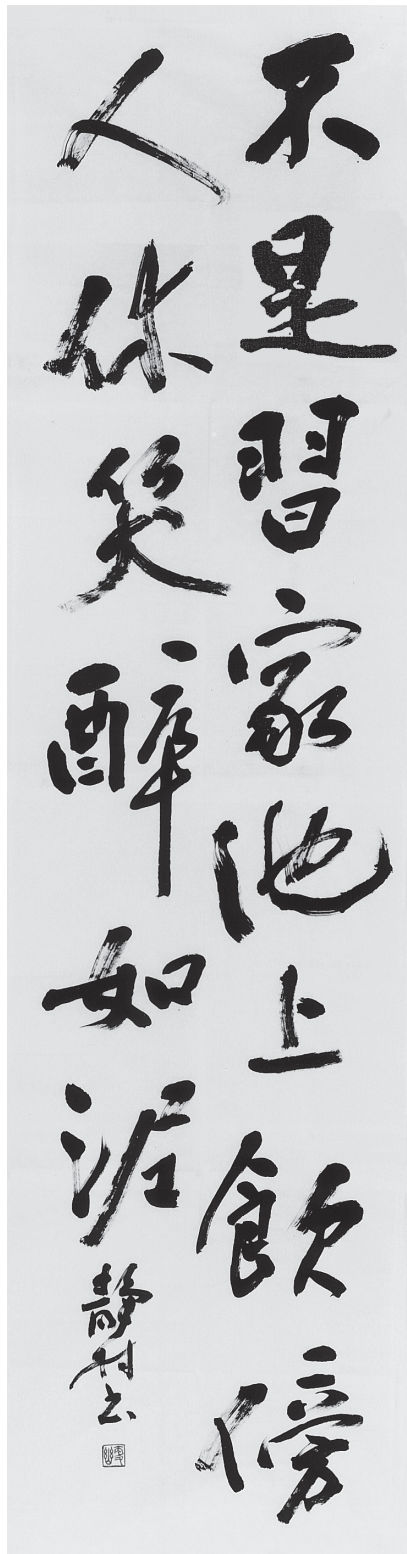
人影近漁扉 頓悟烟奚泊 斯知夢所依
 人影 漁扉に近し 頓に悟る 烟は奚に泊せるかを 斯に知る 夢の依る所を
 意味：人影は漁家の扉に近い。急に悟った、もやがどこに宿るのか、ここに知った、夢に見た場所を。

※抜粋可。条幅は一枚目無料、二枚目から五五〇円。半紙随意部(無料)にも出せます。条幅部に出品する場合はバーコード券余白に「条臨」と記入。

条幅部漢字課題参考

(七月二十二日締切)

A
鈴木静村先生書



不是習家池上飲 傍人休笑醉如泥 (張元禎・明)
是習家池上に飲まらずば、傍人笑うことを休めよ酔って泥の如きを。

B
高橋香樹会长書



是 重心を左にして動きを。習 白の一目目を省いた形。古典には多い。池 三水偏の入筆は突いて開鋒させ、旁は逆に絞ってゴツゴツと。飲 墨継ぎ。偏を大、旁を小。傍 偏小、旁大で変化を試みたが、傍は少し小さめにしたい。人 右払いを伸ばし、右行との並立を避ける。休 人偏に変化(傍との)。笑 犬は古典にも多い。醉 縦画一本棒風で味がない。工夫したい。泥 三水偏は池の偏と相違させて。旁は古典の形を拝借。

今回は、前月同様に行の流れを意識した作としました。書体は、一行目は草書を中心に、二行目は行書にて構成。「不是習」で左から右へ、「習家」で方向を変え、「池」の三ズイと、「上」の二点で変化させてみた。一行目は「笑醉如」で流れをつくってみた。墨継ぎは、「上」と「笑」。

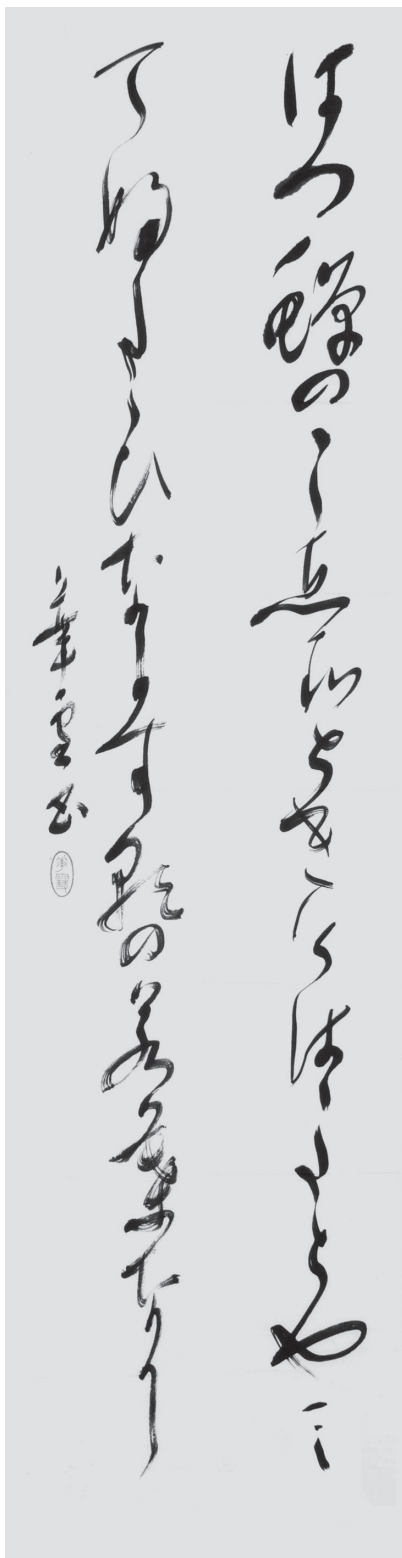
予告 (八月二十二日締切) 寂寞柴門空有舍 蕭條山寺靜無僧 (邪律楚材)

- ◆注意
 - ・条幅部の出品は一人一点 (バーコード券の条漢を○で囲み(1)と記入する。)
 - ・二枚目からの出品 (バーコード券の条漢を○で囲み()に何枚目か数字を記入する。出品料550円)

A

平岡華雪先生書

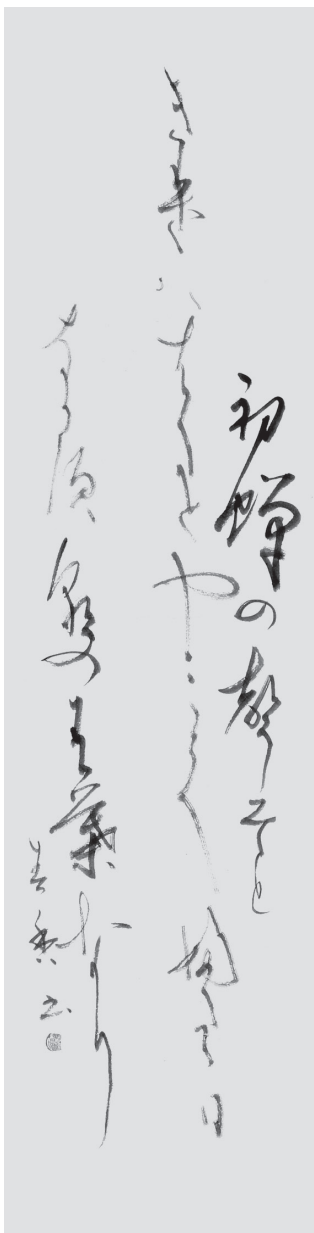
はつ蟬の声ぞと聞けばはたと止みて再び鳴かず朝の若葉なり(土岐善麿)
はつ蟬のこ恵所とき介は、多とや三て婦多、ひな可す朝の若葉なり



B

石原春香先生書

初蟬の聲そとき遣八者多とや三弓婦多、日奈可須朝の玉可葉なり



学び方

歌意：その年、初めて鳴く蟬(初蟬)の声をふと耳にしたと思った途端、ピタリと鳴き止んでしまい、辺りは再び朝

の瑞々しい若葉が茂る静けさに戻ってしまった。

漸増漸減を意識して、二行目は蟬の聲の聴こえるさわやかな朝の若葉を感じつつ、書いてみました。

短歌の叙情や韻律の改新への意欲は生涯に及び、歌集は四十冊近い。余談ですが、東海道五十三次にちなんで「駅伝」と名付けたのも土岐氏です。

予告 (八月二十二日締切)

夏衣かたへすゞしくなりぬなり夜やふけぬらん行きあひの空(新古今和歌集)

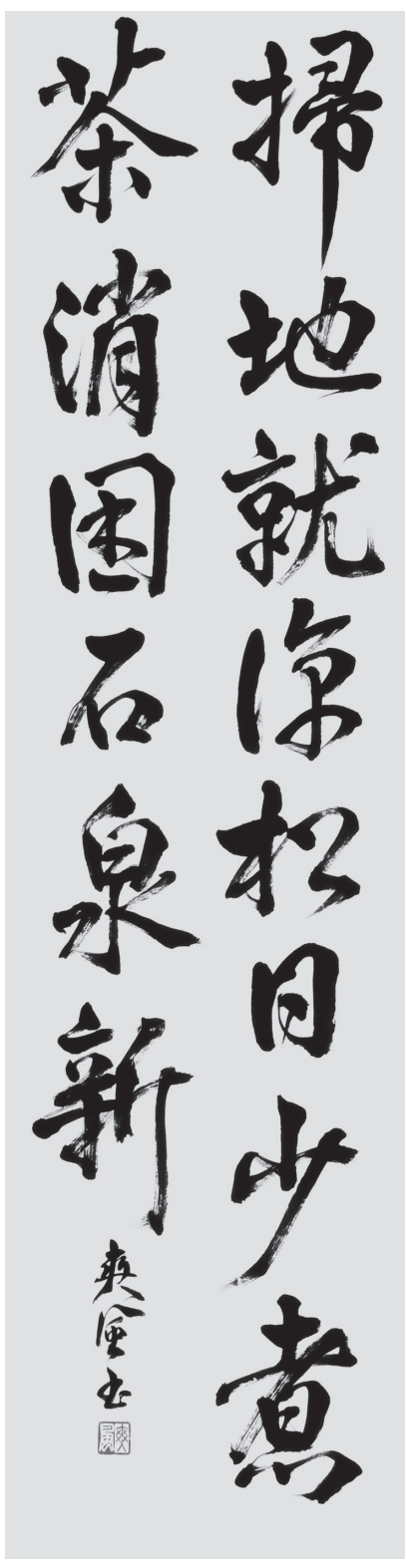
前大僧正慈円

- ◆注意 ・条幅部の出品は一人一点(バーコード券の条かを○で囲み(1)と記入する。)
- ・二枚目からの出品(バーコード券の条かを○で囲み()に何枚目か数字を記入する。出品料550円)

条幅部 随意参考

小森谷爽風先生書

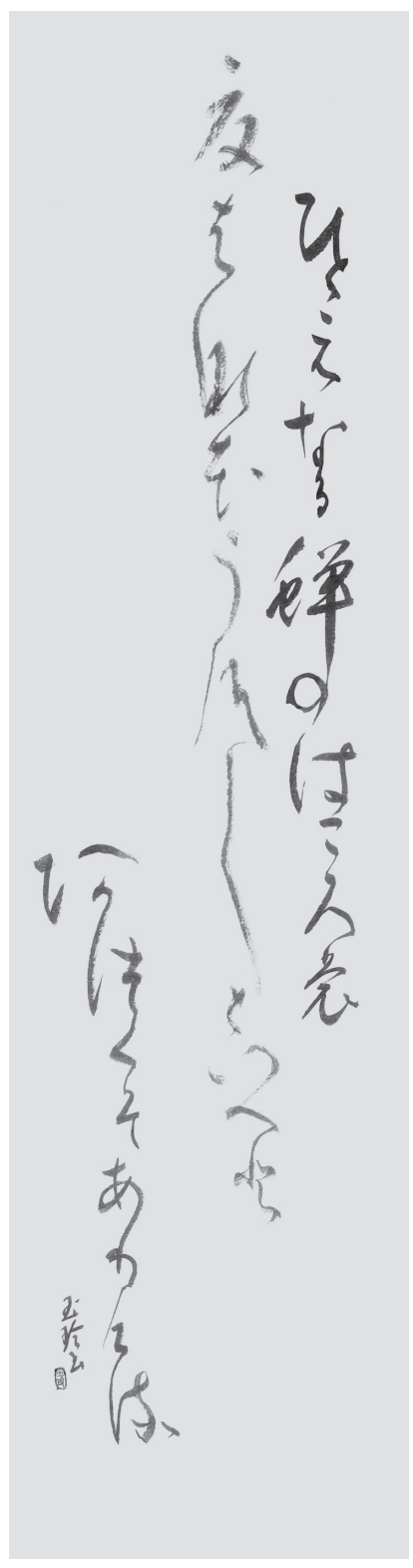
掃地就涼松日少 煮茶消困石泉新 (徐照)
地を払い涼に就く松日少く、茶を煮て困を消す石泉新なり。



訳：地上を掃き清めて涼しい所にゆけば松もる日影はまれに、茶煎じてたいくつを慰めんとすれば汲む石清水は清新である。

大和田玉玲先生書

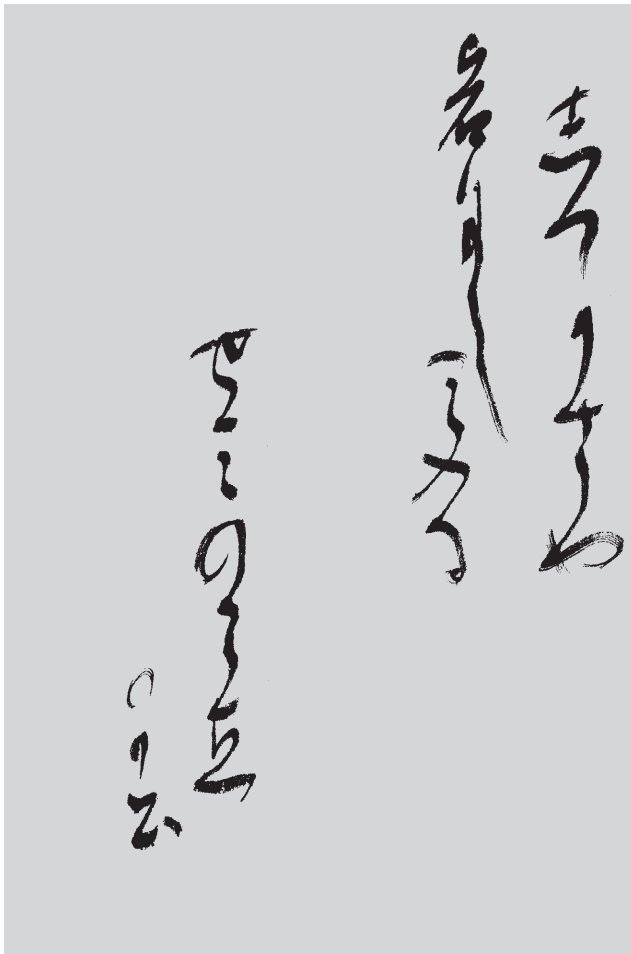
一重なる蟬の羽衣夏は猶うすしといへどあつくぞありける (能因)
ひとえなる蟬のはころ裳夏者那本う須しといへ登阿徒久そあり介流



歌意：一重仕立ての、蟬の羽衣のような薄い着物も、夏にはやはり、薄いとはいってもまだまだ厚く、暑く感じられることだなあ。

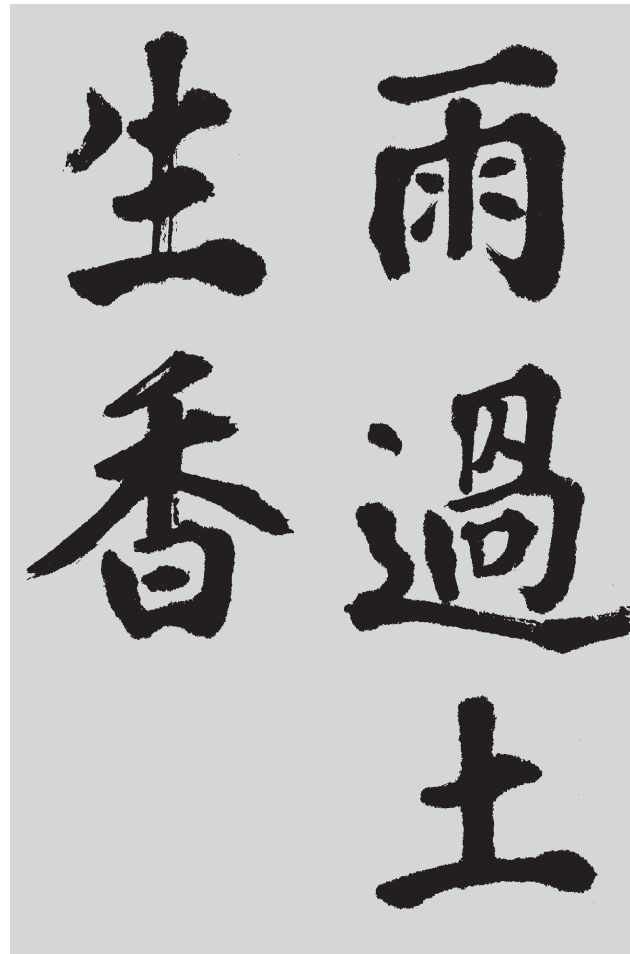
- ◆注意
 - ・条幅部の出品は一人一点 (バーコード券の条随を○で囲み(1)と記入する。)
 - ・二枚目からの出品 (バーコード券の条随を○で囲み()に何枚目か数字を記入する。出品料550円)

かな部課題参考 (七月二十二日締切)



(八月二十二日締切) 新しき笠をかむりてささげ摘む(素十)

漢字部課題参考 (七月二十二日締切)



(八月二十二日締切) 徳厚者流光(穀梁)

平岡華雪先生書
閑^{しづか}さや岩^{いわ}にしみ入^いる蟬^{せみ}の^{こゑ}声(芭蕉)
志^しつ可^かさや岩^{いわ}に^に三^{さん}入^いる^せ三^{さん}の^{こゝろ}こ^{ゝろ}恵^え

〈まず、遅速を〉
初歩段階の作品で特に気付くことの一つは、「遅速」の用筆。これは基礎用筆の一つで、ぜひ習得してほしい。これが会得できると作品は一変する。

平岡華雪先生書
雨^{あめ}過^あぎて土^{つち}香^かを生^なず(陸游)
訳：六月のころ微雨の過ぎた後のことである。

〈主な留意点〉
主調文字は「過」特に、「之^{しん}繞^{りょう}」に留意。他は画数も少ない上に安定的の形、「土、生」同じ用筆の横画をどっしりと。「香」第一画の用筆が要注意。



◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に①～④を記入し、作品左隅に貼付の上、出品して下さい。一般会員は無料、会員外出品料は460円。

①出品部門(例:「漢字部」「かな部」) ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新

楷、行、草、三体課題参考 (七月二十二日締切)



訳：ここは昔から、遠征と戦闘が行なわれた土地。

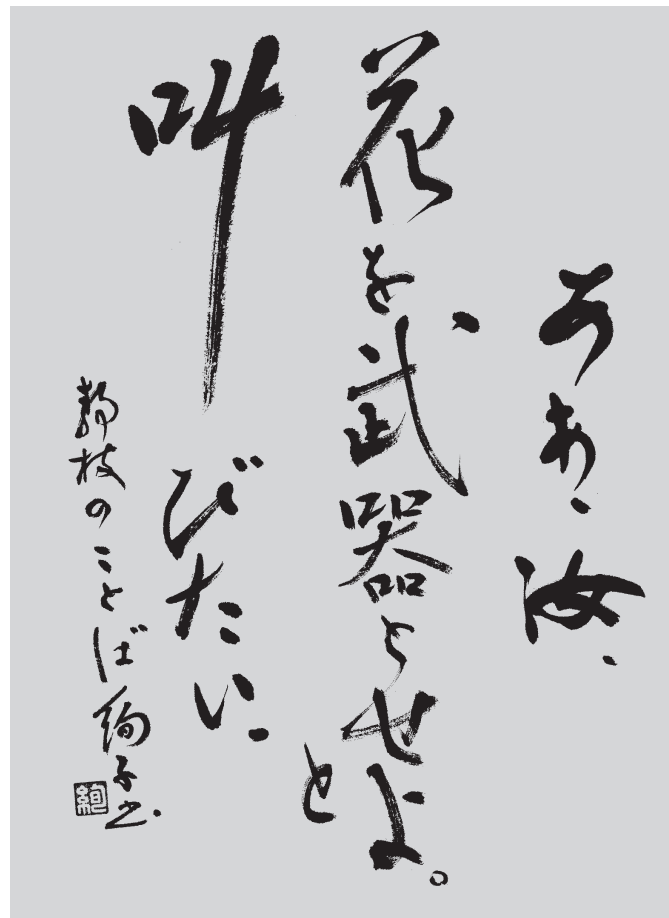
勝間 凜華 先生書

由来征战地 (李白)

由来 征战の地

(1)随意部参考として出品してください。(2)会員外の出品料は460円。

漢字かな交じりの書課題参考 (七月二十二日締切)



宮 絢子 先生書

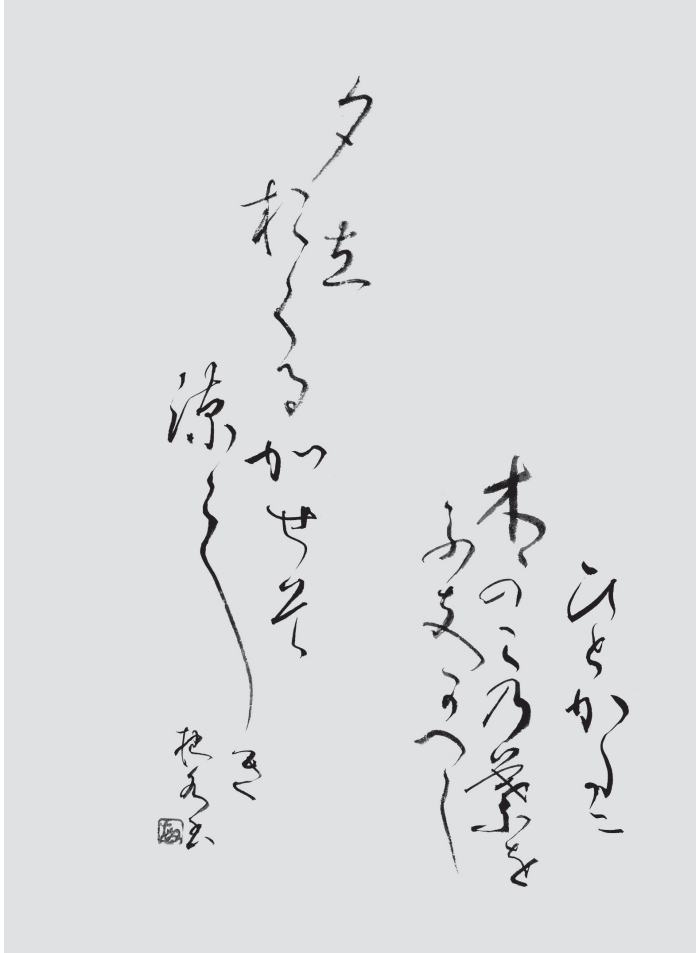
ああ、花を武器とせよ。と叫びたい。

(宮 静枝)

40年前に刊行された詩集『無限花序』のあと書きの一節。現在の世界情勢に発したことは、読めるように。強調部が分かるように。仮名交じり文に自分なりの命を吹き込んで書いてみましょう。

(1)出品料550円 (2)バーコード券余白に「漢か」と記入

随意部参考

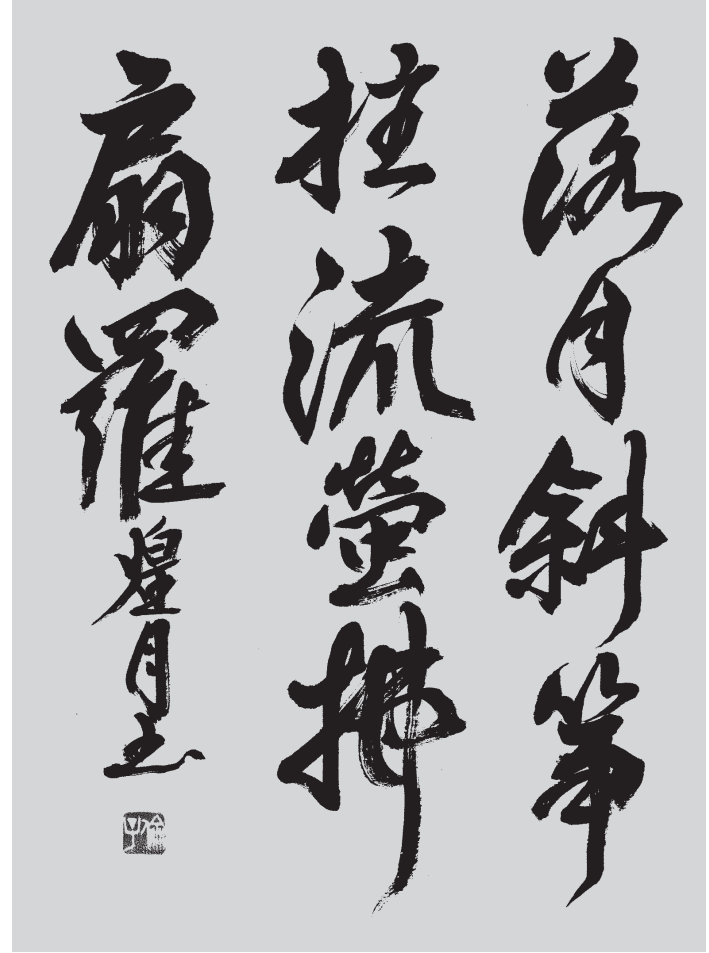


岩本抱水先生書

ひとかたに木々の葉を吹返して夕立おくる風ぞすずしき (伏見院)
ひとかた多二木々のこ乃葉をふ支可へし夕立於久る加せそ涼之き

歌意：一つ方向に、木々の葉を吹き返して、夕立を降らせる雲を吹き送って来る風は、じつに涼しいことだ。

随意部参考



町田煌月先生書

落月斜箏柱 流螢拂扇羅 (張羽)
落月箏柱斜に、流螢扇羅を払う。

硬筆部課題参考

(七月二十二日締切)

生駒紅泉先生書

稲畑暉穂先生書

課題2 (初段階以下)

課題1 (初段階以上)

暑中お見舞い申し上げます
 梅雨が明けたとたん猛烈な暑さと
 なりましたがお変わりありませんか

まな板の上で野菜を刻む音は
 ずっと聞いても楽しくもめでおのずと
 その人のリズムがあり、その日の
 気がひびいてくる。

課題1 (初段階以上)

まな板の上で野菜を刻む音はいつ聞いても楽しいもので、おのずとその人のリズムがあり、その日の気分がひびいてくる。

(『刻む』馬場あき子)

◆注意

- (1) 自分の段級に合った課題を選択。
- (2) ペンまたはボールペン(黒色)を使用のこと。青インクは不可。
- (3) 段級欄は本人が記入(色は黒)はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位に)次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。①硬筆部②支部名または都道府県名③氏名または雅号④新
- (5) 会員は無料・会員外は四六〇円

課題2 (初段階以下)

暑中お見舞い申し上げます
 梅雨が明けたとたん猛烈な暑さと
 なりましたが
 お変わりありませんか

(手紙文)

研究部課題 (七月二十二日締切)

(課題) 漢字臨書



(出典) 『雁塔聖教序』 褚遂良

以其無形也 故知象顯可徵 雖愚不惑
其の形無きを以てなり。故に知る象は顯れて
徴すべければ、愚と雖も惑わず、

雖

▽注意

- (1) 半切タテに臨書する。
- (2) 二行書き・字詰め自由。
- (3) 落款は「元美臨」と書き入れること。雅印は無用。(出品者の本名又は雅号を書き入れた作品は不可)

▽出品要項

- (1) 資格 推薦、準推薦、推薦格合格者 (漢字・随意・かなのいずれかで推薦格以上であればよい。また同人、準同人も歓迎)
- (2) 締切 七月二十二日必着
- (3) 発表 表 書苑九月号誌上
- (4) 出品料 九四〇円同封
- (5) 出品方法
ア、出品は一人一点とする。
イ、私製の出品票 (縦10cm×横5cm) を作品の左下に貼付する。